



A10

ライブ音声翻訳から同時翻訳へ

～ 逐次翻訳・ライブ音声翻訳から
同時通訳を目指して～

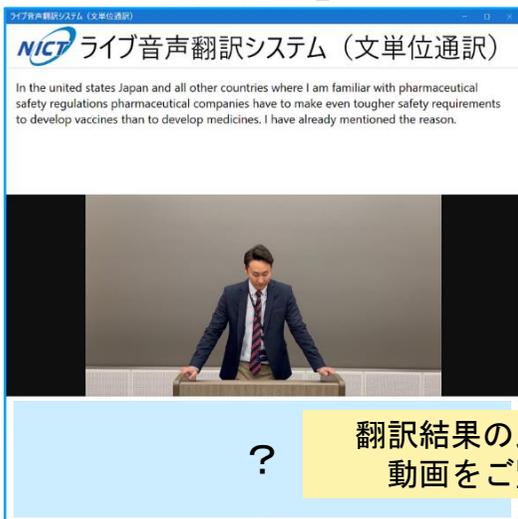


概要

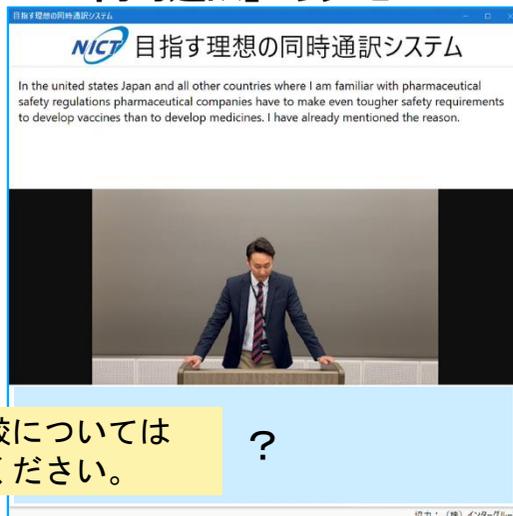
入力された音声を次々に翻訳し、翻訳結果を読みあげる「ライブ音声翻訳」が現在の主流となっています。「ライブ音声翻訳」と我々が目標としている「同時通訳」の違いを説明します。

同じ入力画像を2つのシステムに入力し、翻訳のタイミングや翻訳結果を比較します。

「ライブ音声翻訳」のデモ



「同時通訳」のデモ



? 翻訳結果の比較については
動画をご覧ください。 ?

※翻訳結果、翻訳タイミングは、実際の通訳者のデータを参考で作成しています。

特徴

民間企業と連携し、AIによる「同時通訳」技術の研究開発を行っています。基礎研究から社会実証まで幅広くカバーし、2025年の実用化を目指しています。

ユースケース

同時通訳システムの用途

- ・ 講演の同時通訳
- ・ 翻訳字幕付与
- ・ 会議やビジネス分野での利用

今後の展開

同時通訳システムの実現を目指し、今後以下の研究開発を進める

- ・ 認識や翻訳の遅延を最小化
- ・ 文脈処理
- ・ 要約処理

【お問合せ先】

国立研究開発法人情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所
総合企画室 システム開発グループ
Mail : sdg@khn.nict.go.jp